

〈平成 30 年度事業報告〉

1. 採卵経営をめぐる情勢

平成 30 年度の鶏卵相場は、それまで比較的安定した 4 年間（26～29 年度）に比べて大きく低下し、例年と異なる動きも続出した。5 月の大型連休前や年間一番の鶏卵需要期である 12 月の値下げ、そして最も衝撃的であった 1 月初市の 100 円相場がそれであり、その結果、本格的な養鶏不況が舞い戻り、安定対策事業での成鶏更新・空舎延長事業も同一年度で 2 回発動という異例現象を引き起こした。

価格差補てん（卵価基金）事業と成鶏更新事業の 2 本柱で推進されている安定対策事業は平成 29 年度で 3 期目を迎え、10 万羽以上の事業参加者（基金加入者）に対し、成鶏更新事業の発動から同事業の停止までの期間、卵価基金の補てんが打ち切られる仕組みに切り替えられた。補てん打ち切りは 2 期目（26～28 年度）から実施されたが、3 期目にその対象が 40 万羽以上から 10 万羽以上に切り下げられ、影響が拡大した。つまり、10 万羽以上の中規模クラスで卵価基金に加入している生産者は本会会員にも多いが、補てんカットによって相場低迷の痛手を直に受けることになり、安定対策事業への不信感も高まった。なお、安定対策事業は 2 年後に 4 期目となり、制度の見直しも検討される時期になったが、事業の見直しについては、2、3 月からの役員会で協議を開始し、新年度の 4 月から 5 月にかけて本会独自の改革案を提言した。

鶏卵生産費の最大科目である飼料費は全農発表の配合飼料価格（全国・全畜種平均）でみると、3 期目（10－12 月期）は値下がりしたものの、あとの 3 期は値上がりし、通算ではトン 2,350 円の上げになった。そのほか、運賃や人件費などの諸経費もアップし、鶏卵相場の低迷の中で苦しい経営を強いられた。とりわけ、中小経営は高い飼料費の負担が大きく、本会が年 4 回実施している飼料実態調査でも小規模経営の飼料購入費はトン当たり 1 万円以上のハンディキャップを背負わされている。

人件費の高騰とともに労働力不足の深刻な問題で、外国人労働者対策や新規就農者対策も含む労務管理の見直し・改善などにも着目することが必要になった。

近年、養鶏生産者にとって脅威になっている高病性鳥インフルエンザの発生は平成 30 年 1 月に香川のブロイラー農場での発生後、幸いにも未発生になっているが、育成期のワクチネーションや鶏病一般の衛生対策は鶏卵の安全性や生産効率を落とさないためにもより重要になっており、青年部のセミナーでもそれをテーマに取り上げた。

平成 30 年度を総括すると、経営個々で解決できない問題に対し、組織的な活動力を高めることとともに、鶏卵相場低迷の養鶏不況に対する経営防衛をはかり、新たに発生した諸問題への対処が重要になり、経営力を総合的に高めることが非常に重要になっている。

そうした情勢を踏まえ、今年度具体的に展開した諸活動は以下のとおりである。

1) 第 52 回通常総会

日 時：平成 30 年 6 月 21 日（木）

場 所：A P 品川

参加者：36 名（意見交換会、飼料セミナー：43 名）

議 事：

第 1 号議案 平成 29 年度事業報告に関する件

第 2 号議案 平成 29 年度収支決算および監査報告に関する件

第 3 号議案 平成 30 年度事業計画に関する件

第 4 号議案 平成 30 年度収支予算および会費の徴収に関する件

(2) 役員会・正副会長会議

1) 第 1 回正副会長会議

日 時：平成 30 年 5 月 24 日(木)

場 所：新宿セミナールーム

内 容：平成 30 年度総会提出議案・9 月セミナーについて など

2) 第 1 回理事会

日 時：平成 30 年 6 月 21 日(木)

場 所：A P 東京八重洲通り

内 容：総会議案について など

3) 第 2 回正副会長会議

日 時：平成 30 年 8 月 23 日(木)

場 所：全国農業会議所会議室

内 容：9 月セミナー・今後の事業計画について、鶏卵生産者経営安定対策事業について など

4) 第 3 回正副会長会議

日 時：平成 30 年 11 月 21 日(水)

場 所：全国農業会議所会議室

内 容：今後のスケジュールについて、国内視察・海外視察について など

5) 臨時役員会

日 時：平成 30 年 12 月 19 日(水)

場 所：A P 浜松町

内 容：鶏卵安定対策事業について など

6) 第 4 回正副会長会議

日 時：平成 31 年 2 月 5 日(火)

場 所：A P 東京八重洲通り

内 容：平成 31 年度活動計画・3 月セミナーについて など

7) 第 2 回臨時役員会

日 時：平成 31 年 3 月 20 日(水)

場 所：A P 浜松町

内 容：農林水産省との意見交換会開催に向けて

(3) 青年部活動

1) 第 1 回青年部セミナー

日 時：平成 30 年 5 月 10 日(木)

場 所：A P 浜松町

参加者：40 名

講演：「病気・免疫・ワクチン・ワクチンプログラムの実際」

講師：一般社団法人科学及血清療法研究所 有吉 理佳子 氏

(4) 情報活動

「全鶏 F A X つうしん」 45 回の発信

※希望者に P D F ファイルをメールで送信した。

(5) 研究・調査活動

1) 飼料価格実態調査 (計 4 回実施)

30年4月改定分、7月改定分、10月改定分、31年1月改定分

2) 卵の需給状況調査

30年4月～31年3月（計12回実施）

3) 外国人実習生受け入れアンケート

12月セミナーに合わせて実施

(6) セミナー・研究会等の開催

1) 6月セミナー

日 時：平成30年6月21日（木）

場 所：A P 浜松町

参加者：34名

内容：

①飼料セミナー

「飼料主原料の最新動向」

兼松株式会社 穀物部主原料課 課長補佐 尾上 翔太 氏

「配合飼料について」

株式会社ゼンケイ 取締役営業部長 高杉 庄太郎 氏

②農林水産省及び関係団体、業者との意見交換会

農林水産省食肉鶏卵課 課長補佐 伊藤 寿 氏

日本卵業協会 会長 馬場昭人 氏

J A全農たまご東日本事業部 部長 佐藤 大二郎 氏

キューピータマゴ株式会社 部長 虫本 正之 氏 他

2) 9月セミナー

日 時：平成30年9月19日（水）

場 所：A P 浜松町

参加者：48名

内 容：

<飼料セミナー>

「飼料価格の最新動向」

兼松株式会社 穀物課課長補佐 尾上 翔太 氏

「配合飼料について」

株式会社ゼンケイ 取締役本部長 高杉 庄太郎 氏

<鶏糞対策セミナー>

「デンマークのエネルギー情勢について」

デンマーク大使館

田中 いずみ 氏

「バイオガスプラントの講演」 (通訳込み)

Xergi 社 Xergi A/S (エクサギー)

事業開発兼営業部長

Ole Trudslev 氏

「バイオガスプラントを日本に適応するにあたって」

住友精化株式会社 経理企画室兼技術室

イノベーション推進グループ 酒井 優希 氏

「鶏糞低減飼料について」

JA 全農北日本くみあい飼料株式会社 本社

営業部営業課 課長

鈴木 和明 氏

3) 12月セミナー

日 時：平成30年12月19日 (水)

場 所：A P 浜松町

参加者：39名

内 容：

<飼料セミナー>

「飼料価格の最新動向」

兼松株式会社

穀物課課長補佐

尾上 翔太 氏

「配合飼料について」

株式会社ゼンケイ

取締役本部長

高杉

庄太郎 氏

<外国人材セミナー>

「外国人技能実習生の実態と

新たな外国人材受入れ制度について」

全国農業会議所農政・担い手対策部

相談員

八山 政治 氏

<親メス業者との意見交換会>

日本成鶏処理流通協議会

会長

松尾 邦光 氏

他2名

4) 養鶏分科会 (全国農業経営者協会)

日 時：平成31年2月5日 (火)

場 所：A P 東京八重洲通り

参加者：21 名

内 容：

「養鶏業界の現状と販路拡大の方法」

キトクフーズ株式会社 鶏卵事業部部長代理

兼営業部長 海老原 真司氏

「農業経営における人材の確保」

アーテムコンサルティング事務所 代表 齋藤 貴史氏

5) 3月セミナー

日 時：平成 31 年 3 月 20 日（木）

場 所：A P 浜松町

参加者：31 名

内 容

<飼料セミナー>

「飼料価格の最新動向」

兼松株式会社 穀物課課長補佐 尾上 翔太 氏

「配合飼料と暑熱対策について」

株式会社ゼンケイ 取締役本部長 高杉 庄太郎 氏

<暑熱対策セミナー>

日本レイヤー株式会社 東日本営業部 菅原 順一 氏

株式会社N. G. C 代表取締役 鈴木 康太郎 氏

JA 東日本くみあい飼料株式会社

営業部 営業企画課長 桑原 徹平 氏

(7) 各種団体との検討会

- 1) 一般社団法人日本養鶏協会・日本鶏卵生産者協会、鶏卵輸出準備分科会などとの各種打ち合わせ
- 2) 株式会社ゼンケイとの意見交換、情報交換を開催
- 3) 農林水産省との意見交換を計画、31 年度 4 月に実施。